



霊峰石鎚山参拝



平成25年  
第47号

発行  
所 八ヶ所 八ヶ所 八ヶ所  
場 霊場 霊場 霊場  
宗 言宗 言宗 言宗  
真 真 真  
寺 正観寺 正観寺 正観寺  
行 弘 弘 弘  
出 小 小 小

### 合掌

拝む心を持って、み仏に向う際に自然に誰れしもがなす態度は、両手を合わせることで。すなわち合掌するということです。

このように合掌は誰でもが拝む際に自然にどこにおいてもなす姿ですが、この合掌の本当の意義を知っている人もまた少ないだろうと思います。

古歌に

右仏左衆生（しゅじょう）と拝む手のうちぞ  
ゆかしき南無（なむ）のひと声

というのがある様に、仏教では合掌する場合、右の手はいつも仏や、仏の悟りの世界を象徴し、左の手は衆生（我々人間）の世界を表しています。したがって左右の両手を合わせることは、悟ったみ仏と、まだ悟っていない我々衆生とが一致することを示しているのです。だから一口にいえば、合掌とは仏と衆生とが一体となることを表したものです。すなわち、拝む者と拝まれるものが合体し、悟らないものが、悟ったものの悟りの境地に

よく誦（じゆ）じ、よく言うこと鸚鵡（おうむ）もよく為（な）す。  
言（ことば）つて行（ぎやう）ぜずんば、なんぞ猩猩（しやうじやう）に異（こと）ならん。

〔秘蔵宝鑑〕

自分の言った言葉には責任をもって、誤っていたら躊躇（ちゆうちよ）せずに謝って訂正し、正しく生きて行くところに、無形の財産である「信用」は生まれてくるのである。

導き込まれんことを希望し、念願することをしてしまっているのです。

正観寺でもお勤めする時、皆様に塗香（ずかう）（清浄な「カレーの匂いがある」粉）をお配りして両手に塗ってもらうのもその為です。

プラス拝む心、帰依（信ずる）心がこの合掌に加わって心と態度とが一致してはじめて、合掌に、宗教的に生きた意味が生じて来るのです。つまり、信ずるといふ心の電流が合掌の手の中に通じてこそ、はじめて合掌という機械の作用は生じて来るわけです。だから結局、合掌と信ずる心とは一致し、信ずる心があれば、そこには必ず自然に合掌という姿が表れ、また合掌によってこそ信ずる精神が、はじめて具現することができるのです。少し難しく固い話になりましたが、合掌をしている姿は何人も尊いものです。





地藏祭虎舞奉納



小豆島八十八ヶ所霊場巡拝



柴燈護摩 (於：道隆寺)



霊峰石鎚山鎖修行



柴燈護摩 (於：福王寺)



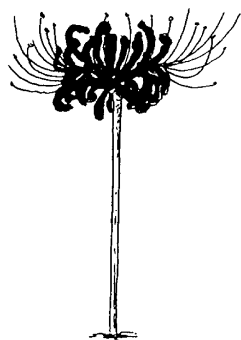
御詠歌奉納

### 観音さま

お釈迦さまは、「数限りない衆生（もろもろの生き物）があつて、さまざま苦しみを受けていても、この菩薩の名を聞いて、一心にその御名を称えるなら、観音さまは、ただちにその願いの声を観じて、すべての苦しみから救い出してくれ、そのような方なので、観世音というのである」と、お答えになりました。

観音さまは、くわしくは観世音菩薩といい、観世音とは世の（苦しみの）音を観じ（ごらんになり）、救いの手をさしのべられる、という意味です。

正観寺の御本尊も観音さままでございませす。是非ご参拝下さい。



## 法事のいっころ

愛しき人の逝き去りて 流す涙の満ち引きの  
満ちて引かざる初七日 菩提祈りし七日ごと  
七度経りて忌み明けに 光りを放つ中有の身  
今旅立たんみほとけの 生命の故郷阿字の里  
百日過ぎなば悲しみの なみだの河も引潮の  
早や迎えしは一周忌 同胞集いて手を合せ  
供養の念いはげまして 手向ける香のほの白く  
暑さ寒さの経巡りて 時は至れり三回忌  
七周すぎて十三と 三と七との年かさね  
幾年月の重ね来て 仏となりて笑むひとの  
形見となりし此身こそ ありがたく思うこの日なり

## 写経の功德について

お写経も宗派により、観音経写経とかいろいろございしますが、ここでは般若心経の写経について述べて参ります。般若心経は仏教の中心のお経であり、尊い仏心を説いていますから、心経という表題がついています。お大師様はこれを「誦持講供すれば、苦を抜き樂を与え、修習思惟すれば、道を得、通を起こす」とお述べになつておられます。これは、心経一卷を写経することによって、一切の苦厄が去り、心身共に健康になり、周囲の人々までが幸せを受け、美しい浄土となる、写経の功德を示されています。皆様も、写経を始めてみませんか。

## お墓

秋の彼岸の中、一羽の鳥が本堂の前で、御本尊に見守られ、正に旅立つ瞬間を目にしました。私は境内に穴を掘って埋めてお墓を作り、お経とお線香をお供えしました。

ところで、動物はお墓参りをすることはありません。墓を作り、お墓参りするのは人間だけです。もつとも「死んだらそれでおしまいだ、墓作って骨拜んでもしょうがねえ！」なんていう人もいるようですが、「墓」という字は「草かんむり」の下に「日」と書き、その下に「土」と書きますが、これは、ポウポウと生えた草むらの向こうに太陽が沈んで見えなくなる様子と、土を上から被せて見えなくするという意味を示しています。つまり、「墓」という字は、亡くなった人や動物を大地に葬り、その上に土を被せて見えなくするということを表している字、それが語源になります。

人間は誰でも、「生命」と「肉体」を親から頂いてこの世に生を受けます。「たった一度の人生だから」という歌詞がありました。親から頂いた生命と肉体を大切に、一生懸命仕事をし、家族と共に暮らし、また友達やいろんな人と交わって、最後は生命尽きてこの世とお別れをして、肉体はお骨となつてお墓に入ります。人の生命というもの、肉体を得ることができたからこそ、一生懸命に自分の与えられた役目を果たし、「人として生きることができた！」と言えるのではないのでしょうか。

当然、新しい大切な人の遺骨を粗末にはできません。お骨は単なる物体ではないのです。お骨は亡き人の形見、「生命の象徴」そのものです。その「生命の象徴」に感謝し心を寄せて、大切におまつりして供養する場所がお墓です。

さあ、お墓に参りましょう。

平成二十五年度 年間行事予定表

六		五		四		三		二		一	
	十八		十八		十八		十				一〇三
	観音縁日		観音縁日		観音縁日		観音大祭 (火渡り・福餅まき)				修正会 (初祈願)
					小豆島八十八ヶ所霊場巡拝		春季彼岸回向				初観音縁日
											三
											星祭り (節分会)
十三		十二		十		九		八		七	
	三十一		十八		十八		十八		十五		七〇八
	年越祭		観音縁日		観音縁日		観音縁日		孟蘭盆会		霊峰石鎚山参拝
							秋季彼岸回向		地蔵祭・施餓鬼 (演奏会)		盆回向
									盆回向		盆回向
											三七〇三
											一〇十五
											十八

月例行事予定表

- 一、諸祈願 (護摩)  
毎月十八日 午前十時半より  
御本尊「聖観世音菩薩」縁日  
・十八日が日曜・祭日の場合は、  
二十一日「弘法大師」縁日  
但し、(二月・三月・八月)は除く
- 二、般若心経写経教室 (月一回程度)
- 三、高野山金剛流御詠歌教室 (月二回程度)

参加者募集

- 一、平成二十五年四月十四日 (日)  
十六日 (火) 二泊三日  
『小豆島巡拝』費用 三七、〇〇〇円
- 二、平成二十五年七月七日 (日)  
八日 (月) 一泊二日  
『石鎚山参拝』費用 三三、〇〇〇円

墓地・納骨堂空きがありません。  
詳細はお寺まで、お尋ねください。

〒七三五―〇〇二九  
広島県安芸郡府中町茂陰二丁目二一八―四  
TEL 〇八二―二八二―五六六二  
FAX 〇八二―二八五―五五三〇  
正 観 寺  
<http://www.shokanji.com>